

たけやま

2010. 9. 2
自主学童保育ささのはクラブ

今年の夏休みの外出は酷暑との闘いのようでした。水筒を持ち、帽子をかぶり、日影の道を選んで、日なたは急いで通り過ぎて…。大きな水筒も片道で空っぽになるので、行先の水道の水を帰る前に補給していました。前は「エーっ水道の水?」と言っていた人達も、それもなくなると、「どこか水くめる水道ない? トイレでも良いからサ」という気持ちになったようです。

極地研究所公開日

去年新築して立川にできたところに行き、来ました。事前申し込みの特別プログラムの他、全館で色々な体験コーナーがあって、「3月まで南極にはした」などのプレートをつけた職員さん達が、案内や説明をしてくださいました。

低温室：人が高くてささのはで当選した人3人だけ。防寒服は貸してくれたサビ。下はキズボーンに運動くつ。「-30℃の室はウツ塞、て感じたサビ-50℃の室はもう足とか、くつの中もビリビリ痛くなって…でも面白かった〜」

氷の研究室：5年女子2人+⑤ 氷山の氷をさわりながら氷を調べてわかることなどの話を聞いたり、氷に入っている泡は数千年前に降った雪に入っていた空気だよと説明されながら、氷を集めた空気をもらって感激!!

南極の砂：砂の中からガーネット(宝石)を取り出そうコーナーにはまてしまった人はひたすらゴリゴリサウサウと昭和基地から取ってきた砂をこすり続けていました。でもさすが貴重な砂なので「こぼしてくつに入っちゃった」と言ったら係人はくつを逆さにぶって回収していましたヨ

ペンギンの話：フリッパーという羽をさわったら、やけに固くてビクッリ。何百メートルも海にもぐる話を聞いたり、質問コーナーでは南極にいるペンギンの数と東京に住んでいる人とどちらが多いですか? とか「ペンギンの毛と人間の毛とどちらが多くはえていますか?」など聞けるもいて…

オーロラショー：カーテンを閉めたコーナーで、実際に撮影したオーロラを室内はいいに広がる映像として見られて、刻々と空全体の色が変化するのに「オー!!!」という感激の声が上っていました。

最後に、南極・北極同時中継を見て、「ウー寒かった、っていいなあ」1F~6Fを行ったり来たり楽しんで来ました。

水泳教室

去年までのコーチが引退した後紹介してもらった方が、今年も3日間2~3人のコーチを苦勞して授けてくれ、ベテランのコーチに教えてもらうことができました。今年も横浜国際プールが使えなくて、メインプール(50m)の深工が1mだということで貸りたのですが、1mだったのは別の期間で、実際は1.2mでした。どうしよう!!と思っていたら、さすがのコーチ達がプールの担当者と交渉してくれて、台を借りてくれて、設置もしてくれ、本当に助かりました。国際プールは競技会でよく使うとのこと、プールの担当者と知り合いだったの事です。

水でも深いプール、でもさすがプールの方達で、「水がこわい人」という時手を上げてる達も手を取って、いっしょに水に入ってもらっているうちに、すっかり慣れた様です。上級コースの人達は3日目には、みんなの前でどこまで泳ぐのかやってみたのですが、初級コースの子達の声援もあり、「無理しなくていいよ」と言われながら、必死に泳いでいました。この水泳教室のおかげで、次の後のプールはとて安心でした。

林試の森公園

木のかたおごい、と思った日、大木がいっぱいの中の涼しいこと、風も涼しくて、木影でアスレチックやオニゴッコジャブジャブ池で思いっきり遊べました。ジャブジャブ池では幼児もいっぱいいて、「いっしょに遊んだ!」、チャッカリと水鉄砲を貸してもらったり、誰にも遊べるささのは、子、を充てていました。

夏休み工作



夏休みはいつになく短いし、引越しいはあつと、水鉄砲にお休みするし、いったいみんなできるのかと心配しましたが、みんな完成して良かった。人形はみんなかわいくて、でき上がりをみて、「わたし来年は人形にしようか〜」高学年は服にもこって、夕キンドウエイキングドレス、ボシロとサロバート、和風など、動物もウサギ、ネコ、ネズミ、ヤギ、キンネカメと色々、でき上がる前から水鉄砲で遊ぶお話作りにも夢中になって、すっかり切り、ていました。工作は調整や設計に苦勞しながらも、自分たちでなくみんなが使え、遊ぶことを想定して、難しくすることは苦しいあづく、「オレもできネエ」とアツアツ、なかなかのでき上がりでしたよ。